

■■■■の田んぼ、あと30年守るため！！

～水稻経営規模拡大及び収量・品質アッププラン～

岩美町■■■■
認定農業者 上根 慶万

1 はじめに

私は、平成26年から岩美町■■■■で就農し、稲作経営を行っています。

就農して5年となり、平成31年3月に認定農業者として認められました。就農してから急速に周辺の農地を受けてほしいとの依頼が岩美町農業振興公社を通じて多くあり、就農当初は10ha程度だった経営面積は、今では23.4haになり、作業量が大幅に増加しました。そのため春作業の畔塗り、耕うん、代かきと秋の稲刈りが終わった後の堆肥、土壌改良剤の散布等を過密な作業計画を組んで実施しています。

また、近年気象状況が厳しく、特に雨等でほ場がぬかるむと適期に作業できない状況となっています。こうした理由により春のほ場準備や秋の刈取りが遅れることから、米の収量及び品質にも影響を与えている中で、今後は適期作業を進め、収量及び品質アップに繋がりたいと考えています。

現在は、私と臨時的な雇用で仕事を行っていますが、今後も経営規模拡大が見込まれ、作業量がさらに膨大になる中で、より一層の発展と地域農地の受け皿となるためには、馬力のより高いトラクターやコンバインの導入を行い、春作業や収穫作業の効率化をより図っていくことが重要です。

今後、周辺農家の高齢化により、農業を離れる農家が増えることが予想されます。私は岩美町農業委員として、また自分の生まれ育った■■■■の農地を荒廃することなく守りたいと考えています。今後も■■■■地区の条件の悪い農地については水田基盤の改良を行いながら、農地を受け入れ集積し、地域農業を支えていきたいと思えます。

<目 標>

- 1 水稻経営規模拡大 H30：2,170a → R4：3,444a
- 2 作業の効率化（秋鋤き実施面積）H30：0a → R4：600a
- 3 主食用米の収量向上 H30：388kg/10a → R4：450kg/10a
- 4 コンバイン導入による1等米比率の向上 H30：30% → R4：60%
- 5 主食用米の個人販売量の確保 H30：8,000kg → R4：22,500kg

2 経営の現状

(1) 栽培の現状と計画

品目 (品種)	H30 (現状)	R1 (計画)	R2 (計画)	R3 (計画)	R4 (計画)
水稻					
単位：a					
コシヒカリ	720	850	726	829	953
きぬむすめ	220	550	1,078	1,255	1,301
ひとめぼれ	230	324	140	160	190
飼料米 (日本晴)	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
小計	2,170	2,724	2,944	3,244	3,444
作業受託 (別紙経営試算表参照)	562	562	562	562	562
小計	562	562	562	562	562
合計	2,732	3,286	3,506	3,806	4,006

- ・ 地区の50%を集積し、作業効率を上げる。
- ・ 食用米の60%を自己乾燥し、直売米として民宿や飲食店等に契約販売を行う。

3 課題と改善方策

【課題】

(1) 春・秋作業 (耕耘、代かき等) の効率が悪く、適期作業ができていないことによる米の品質、収量の低下

- ア 現在、25psと58psのトラクターを所有しているが、春作業は主に58psのトラクターを使用して行っている。しかし、私1人で畦塗り機、ロータリーなどのアタッチメントを交換しながら、畦塗り、耕耘、代かきを過密な作業計画を組んで実施していたため、1日平均労働時間が10時間を超え、最長15時間で過重労働となっている上に、適期に作業を終わらせきれていない。
- イ 過密な春作業の一部を軽減し、田植え後の除草効果を上げるために、秋鋤き (耕耘)、代かき、冬期湛水を行いたいが、刈取りが11月までずれ込み、天候が比較的安定している10月中に秋鋤きができない。また、現在所有している58psトラクターには、コンバイン回送用にトレーラーを装着しており、秋作業用には使用できない。

(2) 悪い土地条件

- ア 地区には、水はけが悪く、トラクターが入らない、ぬかるんだ水田が多く、畦塗りができないほ場も多くある。このようなほ場では水持ちが悪くなり、田植え後の除草剤の効果を阻害し、雑草害で水稻の生育・収量に影響を及ぼしている。
- イ 近年、地区の農地は地力不足でごま葉枯病の常発地となっており、収量減の要因となっている。
- ウ 鳥獣被害で収穫量が激減した。

(3) 水稻の刈り遅れによる品質低下

現在、刈取りは4条刈りコンバイン1台で対応しているが、1日に80～90aと能率が上がらないため、耕作面積の拡大に追いつかず、収穫期間が長期化し、刈り遅れによる品質低下（1等米比率の低下）を招いている。

(4) 秋作業の乾燥調製及び袋詰め作業の作業効率が悪く、経費がかさむ

ア 現在の乾燥機（24石）及び籾摺機では乾燥調製作業が追い付かず、RC及び近隣の認定農業者に乾燥調製を委託してもらっているため、委託費がかさんでいる。

イ 耕作面積に対して、乾燥調製に係る機械（乾燥機、籾摺り機）の規模が小さく、乾燥調製に膨大な時間がかかるため、刈取作業が効率良く行えておらず、適期刈取りが行えていない。

(5) 米の販売量の確保

農業経営を安定的に行うためには、JA販売のほか個人販売が必要と考えている。H30年から個人販売として、民宿や飲食店等に契約販売を行っている。今後県外の米卸業者と取引が見込まれているが、出荷量が8000kgと少なく、契約数量の確保が求められている。

【改善方策】

(1) 57psトラクターとロータリーの導入による春・秋作業の効率化

ア 現在所有のトラクター1台を高馬力のものにより、水はけが悪いなどの条件の良くないほ場の耕耘が可能となり、ほ場の湿きを待たずに鋤きこみ作業を行うことができる。

イ 本年4月から常時雇用を雇い、作業を計画的に進めている。今後、2台のトラクターを活用して、一つの作業にとらわれず、計画的に適期作業を実施する。2人で、畦塗りとすきこみ、除草とすきこみというように、作業を分担し、効率化を図り、面積拡大に対応した上で、労働時間の短縮を目指す。

ウ 栽培技術改善として、密苗栽培を行い、省力化を図る。

エ 秋鋤き（耕耘）、代かきを行った上で、冬期湛水を実施する（計画面積：600a）。

※別紙作業スケジュール表（春作業）参照

(2) 土地基盤改良

ア 排水溝の泥上げをして、ほ場の水はけを良くする。

イ ほ場にかかる木の伐採作業（影切り）を行い、ほ場を乾かしやすくする。

ウ 鳥獣被害で法面や畦を壊されるので、ユンボを借りて直す作業を実施する。

エ ワイヤメッシュの張り替えを行い、獣侵入を防ぐ作業を実施する。

(3) 水稻の適期収穫対策

ア 適期収穫するためには、6条刈りコンバインを導入し、1日に100～200aの刈取りが可能となり、効率的に作業を行うことができる。

イ 稲刈りを効率よく行なうことで、刈り遅れを解消し、経営規模拡大に対応できる。また、時間短縮によって10月末～11月上旬に時間の余裕を生み出すことが可能となり、秋作業（秋鋤き、代

かき) が計画的にできるようになる。

(4) 乾燥調製機械の規模拡大による作業の短縮及び委託費削減

ア 令和元年9月に乾燥機(50石)、籾摺機、計量器を導入し、適期刈取りする体制を整えることで、適期作業ができる環境を整備する。

イ 乾燥調製作業に係る機械の規模を拡大し、乾燥調製の委託費を削減する。

(5) 米の販売量の確保

引き続き、民宿や飲食店などの販売先への契約数量を確保するため、収量アップを目指す。

4 農業経営における目標

プラン実施期間：令和元年度～令和3年度(3年間)

目標年度：令和4年度

(1) 水稲経営面積を現状の2,170aから目標の3,444aへ拡大し、経営の安定を図る。

(2) トラクター・ロータリーの導入により、秋鋤き(耕耘)の延べ面積を現状0aから目標600aにする。

単位：a

作業	H30 (現状)	R1	R2	R3	R4 (目標)
秋鋤き	0	400	500	550	600

(3) 水稲の収量向上

主食用米 H30年：388kg/10a → R4年：450kg/10a

(4) 1等米比率の向上(6条刈りコンバイン導入による適期刈取り)

1等米比率 コシヒカリ 30%(H30) → 60%(R4)

(5) 主食用米の販売量の確保

(単位：kg)

区分	H30 (現状)	R1	R2	R3	R4 (目標)
JA販売	37,410 (1,247袋)	55,080 (1,836袋)	64,980 (2,166袋)	78,480 (2,616袋)	87,480 (2,916袋)
個人販売(コシヒカリ)	8,000 (266袋)	22,500 (750袋)	22,500 (750袋)	22,500 (750袋)	22,500 (750袋)

5 主な農業機械・施設の所有状況及び整備計画

区 分	台数等	能力・規模	導入年	備 考
トラクター				
草刈り機				
田植機				
コンバイン				
ブロードキャスター				
ハンマーモア				
トラクター				
トレーラー				
糶摺機				
田植機				
軽トラ				
ドローン				
畦塗り機				
草刈り機				
田植機				
播種機				
苗箱並べ機				
トラクター				
ロータリー				
乾燥機				
糶摺機				
計量器				
コンバイン				

6 事業による効果

(1) 57ps トラクター・ロータリー導入による作業の効率化

57ps トラクターを導入し、現在の58ps トラクターと2台体制にすることで、1番耕から代かきまでの春作業が計画的に実施できる。また、ぬかるんだほ場に入ることが可能となり、これまで畦塗りができなかったほ場においても、畦塗りが可能となり、水持ちがよくなることで、除草効果が高まる。

さらに、秋作業が可能となり、耕耘から代かきまでの春作業の一部を実施することで、余裕をもって春作業を行うことが可能となる。

(2) 6条コンバイン導入による作業時間短縮と適期刈り取り

1日の刈取り面積を80～90aから100～200aまで伸ばすことで、適期刈り取りが可能と

なり、米の品質向上（1等米比率の向上）に繋げる。

品 種	現 状	計 画	刈取り計画 (R4)		
			4条		
コシヒカリ	9月21日～	9月11日～	4条	287a	953a
	10月4日	9月25日	6条	666a	
きぬむすめ	10月5日～	10月1日～	4条	651a	1301a
	10月17日	10月10日	6条	750a	
ひとめぼれ	9月2日～	9月2日～	4条	0a	190a
	9月17日	9月10日	6条	190a	
飼料用米	10月18日～	10月10日～	4条	200a	1,000a
	10月30日	10月20日	6条	800a	
作業受託分	9月4日～	9月4日～	4条	262a	262a
	9月20日	9月20日	6条	0a	
合 計			4条	1,400a	3,706a
			6条	2,306a	

(3) 50石乾燥機、籾摺機、計量器の導入による乾燥調製作業の時間短縮及び経費削減

これまで委託に出していた部分を自己乾燥に充てることで、経費を削減し、一度に乾燥できる量が増えることで、作業時間の短縮を図る。

7 事業内容と役割分担

項 目	R 1	R 2	R 3	役割分担
経営面積拡大	○	○	○	本人・町
秋鋤きの実施	○	○	○	本人
全ほ場2番耕耘の実施		○	○	本人
水稻の品質向上	○	○	○	本人
販路開拓	○	○	○	本人
雇用確保	○			本人
乾燥機の導入	○			本人
トラクター57psの導入	◎			本人・町・県
計量器の導入	◎			本人・町・県
籾摺機の導入	◎			本人・町・県
6条刈りコンバインの導入			◎	本人・町・県

◎は、県や町の支援が必要なもの（がんばる農家プラン支援事業）

8 支援事業の内容

年度	導入機械	事業費 税抜(千円)	負担区分(千円)		
			県(1/3)	町(1/6)	本人(1/2)
R1	トラクター57ps	6,245	2,421	1,210	3,633
R1	ロータリー	1,019			
R1	籾摺機	944	481	240	723
R1	計量器	500			
R1小計		8,708	2,902	1,450	4,356
R3	コンバイン	15,051	3,000	1,500	10,551
R3小計		15,051	3,000	1,500	10,551
合計		23,759	5,902	2,950	14,907

<添付書類>

- 1 ほ場地図
- 2 経営試算表
- 3 導入機械カタログ、見積書、規模決定根拠
- 4 作業スケジュール表
- 5 資金繰計画
- 6 機械導入理由書